

間伐材の可能性

～地域資源の活用と持続可能な町づくり～

2年 吉本 泰江 大西 森村

内容

- 背景説明
- 間伐の必要性
- 持続可能な間伐のために
- まとめ



背景説明

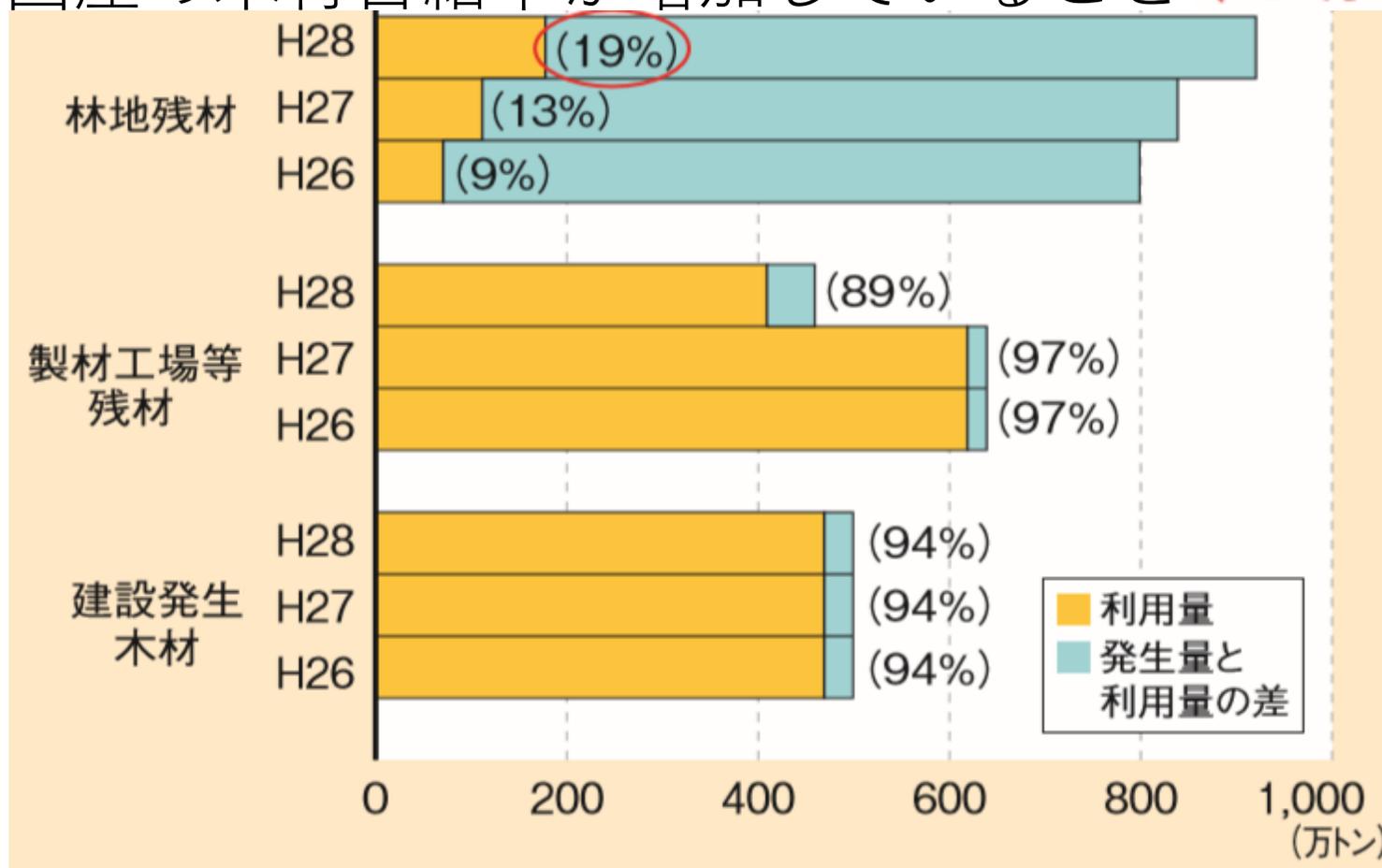
2018年7月の土砂崩れの様子



背景説明

- 全国的に国産の木材自給率が増加していること

令和7年の目標 30%以上
(320万トン=約800万㎡)

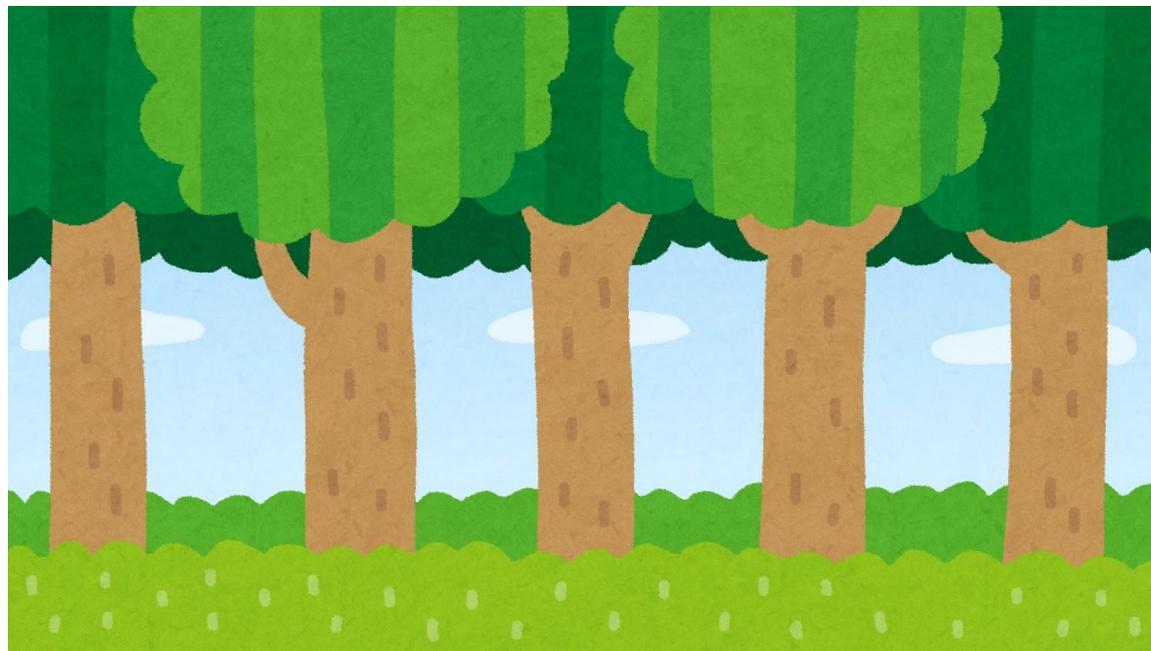


背景説明

様々な間伐材の利用を広める



間伐の必要性を広める



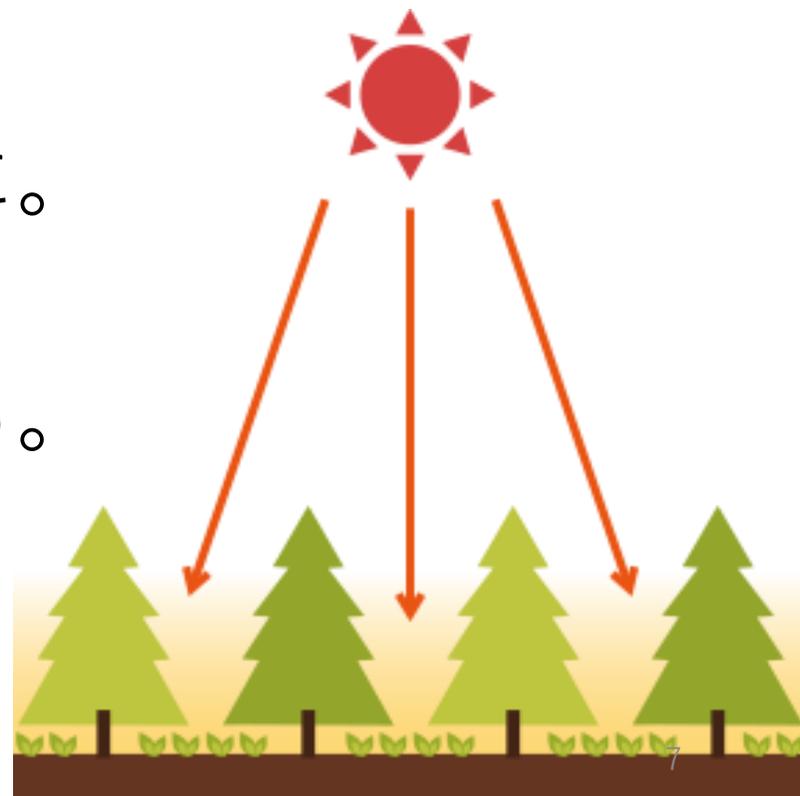
間伐の必要性

- (1) 間伐の環境への貢献
- (2) 資源としての間伐材
- (3) エネルギーとして利用

間伐の必要性

(1) 間伐の環境への貢献

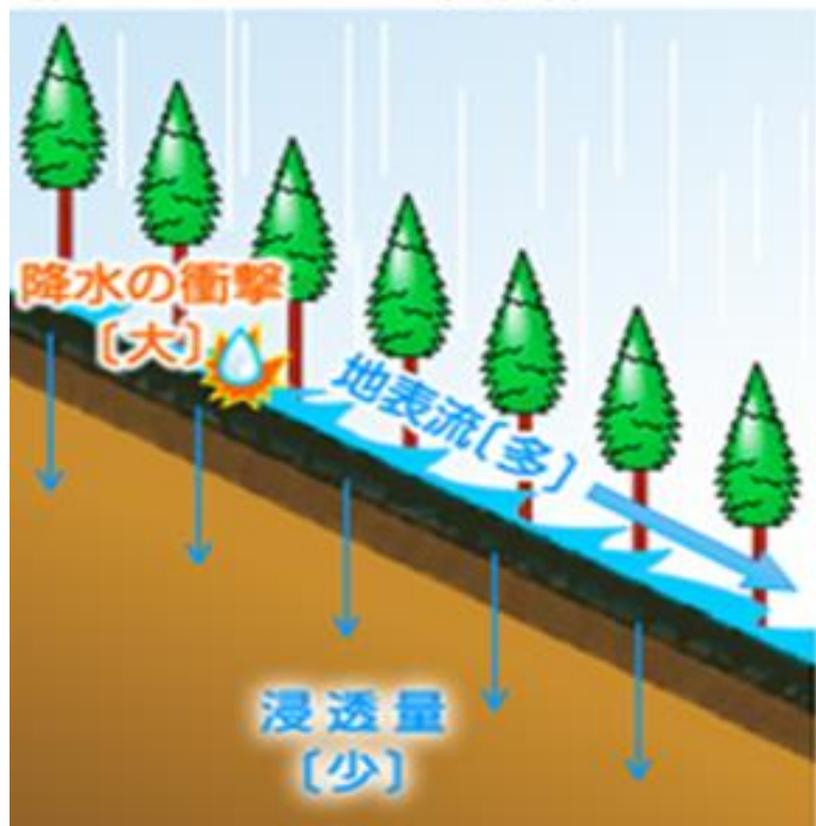
- 木々の十分な間隔で根が広がり、**地盤が強化**される。
- 光合成の活発化で**地球温暖化の防止**に。
- 下草も生え、**生物の多様性**につながる。



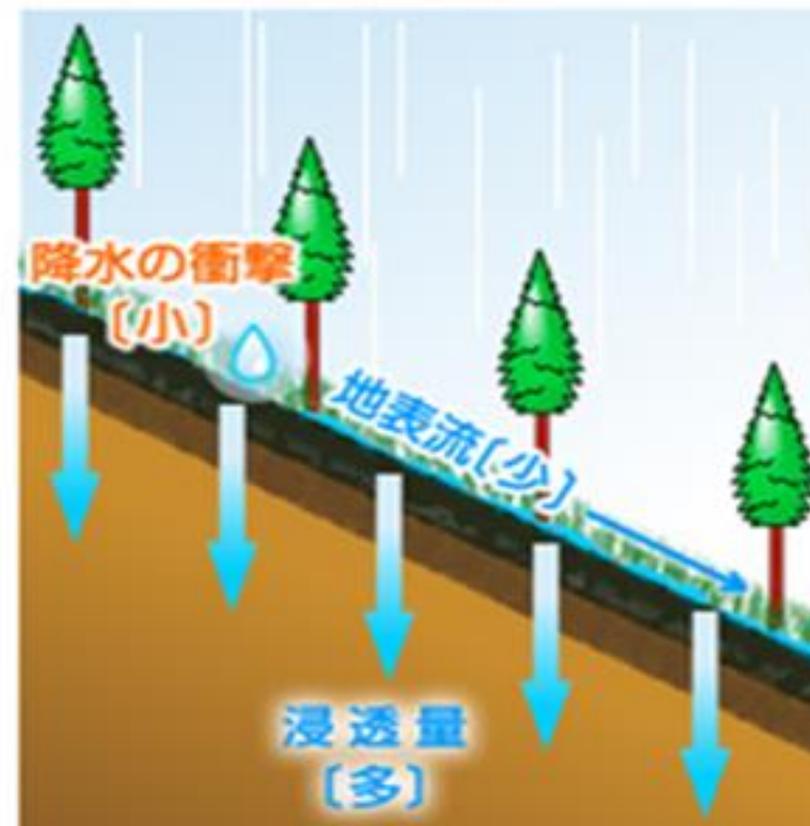
間伐の必要性

(1) 間伐の環境への貢献

〔間伐しない場合〕



〔間伐した場合〕



間伐の必要性

(2) 資源としての間伐材

- ・住宅・一般建築物



間伐の必要性

(2) 資源としての間伐材

- ・ 木製品

割りばし、つまようじ、木製食器、ストロー



間伐の必要性

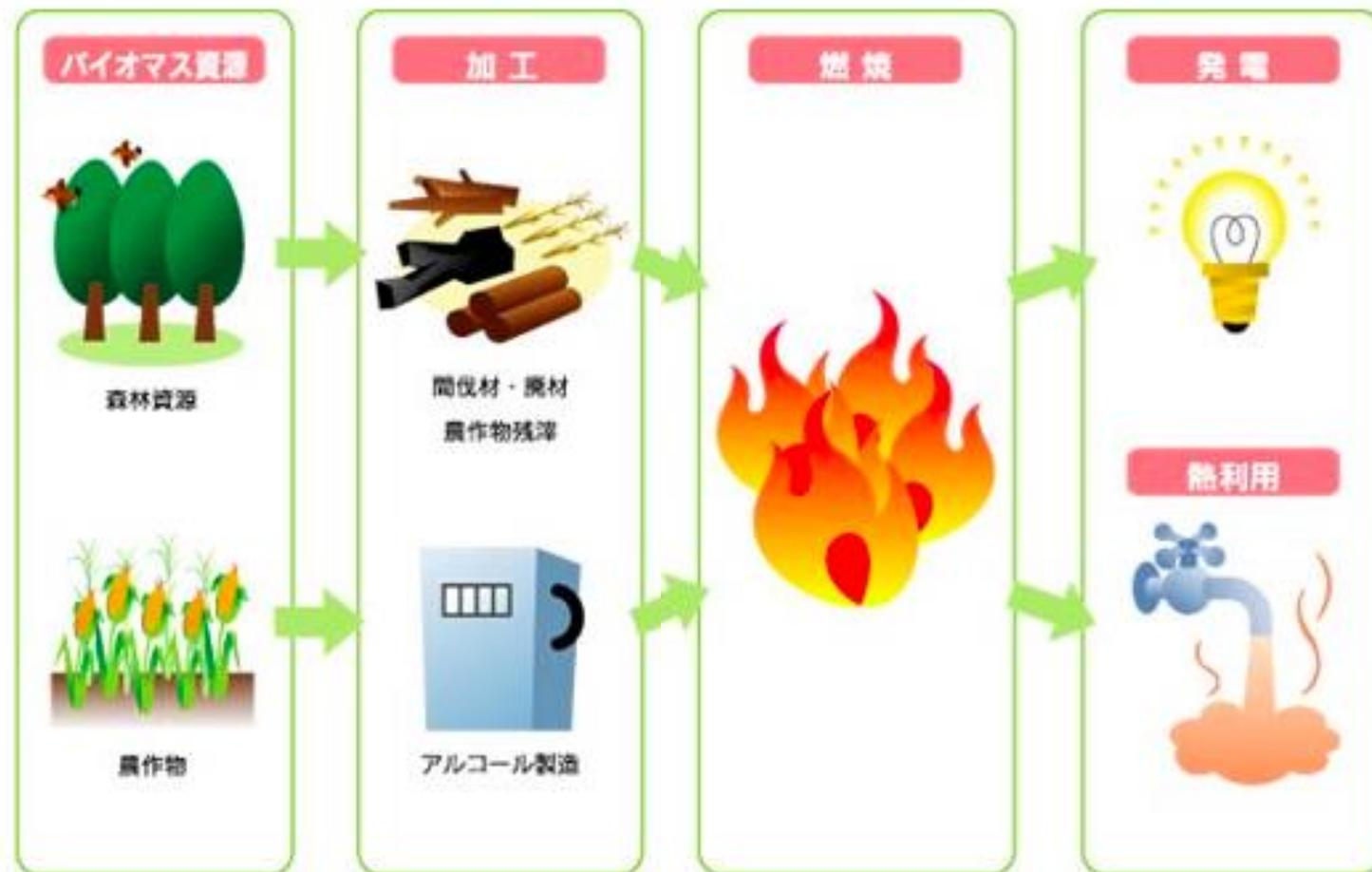
(3) エネルギーとして利用

木質バイオマス

- ・ 木材は3~4kg = 灯油 1 ℓ

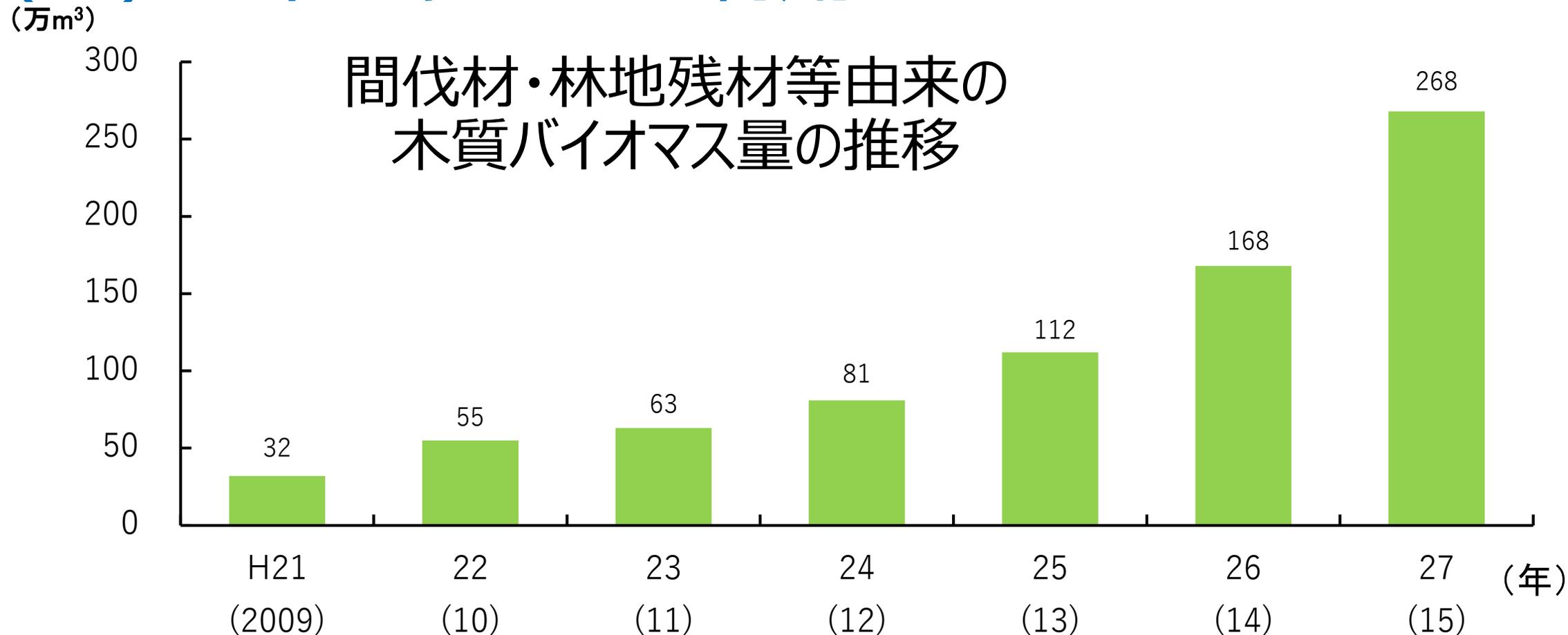


- ・ 熱源や発電に利用



間伐の必要性

(3) エネルギーとして利用



資料：平成26(2014)年までは、林野庁木材利用課調べ。平成27(2015)年は、林野庁「平成27年 木質バイオマスエネルギー利用動向調査」及び林野庁「平成27年 特用林産物生産統計調査」

持続可能な間伐のために

1. 林業経営の現状
2. 森林資源の循環利用



持続可能な間伐のために

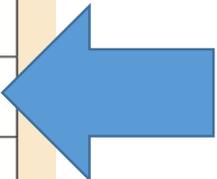
1. 林業経営の現状

資料Ⅲ－7 林業経営体数の組織形態別内訳

(単位：経営体)

	林業経営体
家族経営体	78,080
法人経営(会社等)	388
個人経営体	77,692
組織経営体	9,204
法人経営(会社・森林組合等)	5,211
非法人経営	2,704
地方公共団体・財産区	1,289
合 計	87,284

林業の
89%が
個人経営

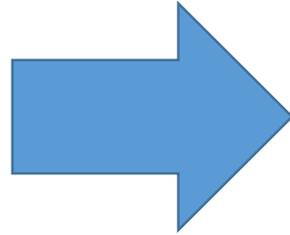


資料：農林水産省「2015年農林業センサス」

持続可能な間伐のために

個人経営の問題点

- 採算が取れない
- 労働者不足
- 後継者の減少



組織化を目指す

持続可能な間伐のために

2. 森林資源の循環利用

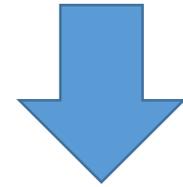
資料Ⅳ-42 森林資源の循環利用(イメージ)



持続可能な間伐のために



このサイクルを
確立するために



若者にも魅力的な
林業を育てる

まとめ

林業の組織化

- 広くサイクルを普及
- 個人の負担が減る

森林資源のサイクルに「加工」まで含める

- ベンチや遊具を作り公共の建物に置く

